

年表で綴る 甕、海の移り変わり

世紀	時代	日本の主なできごと	甕、海周辺の主なできごと
3 5 4		<ul style="list-style-type: none"> ・日本武尊^{やまとたけのみこと}の早世を惜み景行天皇諸國に御名代^{みなしろたけ}建部を置く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・応神天皇吉備行幸のとき川^{がわ}湯^ゆ巢^{あがた}を置く。 ・浅口郡金光町「竹」, 吉備郡菅谷「竹部」
5	雄略天皇7年 (463)	<ul style="list-style-type: none"> ・仁徳天皇の皇后八田^{やたのひめみこ}皇女の御名代を置く。 ・允恭天皇の皇子木梨^{きなしのかる}輕の御名代を置く。 ・清寧天皇の皇子生れながらにして白髪のため御名代を置く。後いみなるをさけて真壁部と改める。 ・陶工新漢^{あたらしくまの}陶部^{たわべ}高貴を召す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総社市「八田」, 吉備郡真備所「箭田」 ・都窪郡清音村「輕部」 ・総社市常盤「真壁」 ・陶焼物作りがはじまる。
6	欽明天皇の時 (550ごろ)	<ul style="list-style-type: none"> ・諸國に屯倉^{みやけ}を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児島に屯倉を置く。
7	大化元年 (645)	<ul style="list-style-type: none"> ・大化の改新 	<ul style="list-style-type: none"> ・この頃玉島の平野部一帯はすべて海だった。
8	大聖元年 (701) 和銅3年 (710) 和銅5年 (712) 靈龜2年 (716) 養老4年 (720)	<ul style="list-style-type: none"> ・大聖律令の制定 ・平城京(奈良)を都と定める。 ・古事記ができる。 ・日本書紀ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浅口郡の地名が見える最初の記録(続日本紀・元正天皇靈龜2年) ・寒田瓦窯^{さむたがらや}址(玉島陶李寒田)奈良時代前後の瓦が盛んに焼かれたところと推測されている。
9 5 10	朱雀天皇 承平年間 (931~937)	<ul style="list-style-type: none"> ・倭名類聚抄(和名抄)を源順が作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浅口郡, 東は窪屋^{くぼや}郡に接し南は海を限り西北は小田・下道^{しもみち}に至る。領郷8。(和名抄)

世紀	時代	日本の主なできごと	斐, 海周辺の主なできごと
11 5 12	寿永年間 (1182~1185) 建久3年 (1192)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸国に源平合戦起こる。 ・ 平家一門滅亡(寿永4年・1185) ・ 源頼朝が鎌倉幕府を創設する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 龜山の窯址(玉島・富田寺・龜山) 平安時代の終りごろから鎌倉時代にかけて陶器作りが盛んであった。 ・ 源平水島の合戦があった。 (寿永2年・1183) ・ 鎌倉時代の庄園分布 大島庄(笠岡市) 口林庄・新庄 里見庄(上里庄町) 佐方庄・津田庄・多気庄(以上金光町) 阿知庄・河村庄(以上倉敷市)
15 5 16	応仁元年 (1467) 天正18年 (1590)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応仁の乱が起こり、戦国時代にはいる。 ・ 豊臣秀吉が全国を統一する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戦国時代の城址分布 森本山城・畑山城・龜崎城(以上柏島) 龍王山城(沙美) 要害山城(道越) 早朝山城(長尾) 猿掛城(真備町安妹)
17	慶長8年 (1603) 寛永元年 (1624) 寛永9年 (1632) 寛永16年 (1639) 元禄6年 (1693)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 徳川家康が江戸幕府を開設する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松山城主池田長幸が長尾内新田を開発し、斐, 海の干拓がはじまる。 ・ 池田光政岡山城主となる。 ・ 水谷勝隆成羽城主となり、寛永19年に松山城主となる。 玉島港の開発及び斐, 海の干拓に努力する。 ・ 約30年経て池田光政の干拓が行われる。 ・ 水谷勝美没し世継ぎ無く断絶す。

世紀	時代	日本の主なできごと	養, 海周辺の主なできごと
	元禄8年 (1695)		<ul style="list-style-type: none"> 玉島は天領と松山領に分割された。
18	元禄15年 (1702)		<ul style="list-style-type: none"> 天領を割いて亀山領とし、これ以降玉島は三藩による分割支配となる。
	元禄年間 (1688~1703)		<ul style="list-style-type: none"> 玉島港での繰綿取引が急増し、備中綿の名世に知られる。
	宝暦天明年間 (1751~1788)	<ul style="list-style-type: none"> 幕府、菜種・綿実の大阪回送を奨励し、その後大阪以外での取引を停止する。(宝暦年間) 各地で年貢・課役等の減免を要求して農民の一揆がさかんになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 玉島港での繰綿出荷の最盛期を迎え、玉島付近の綿作付率も最高となる。 一方では「水綿」を出荷するものが増え備中綿の信用をおとす。 宝暦以降、幕府の油物統制により玉島港での取引が停止され、打蕨を受ける。 このころから玉島港の衰退がはじまる。
	寛延3年 (1750)		<ul style="list-style-type: none"> 高潮により玉島港の水内決壊し玉島村と阿賀崎新田村外数か村が争う。
	寛政元年 (1789)		<ul style="list-style-type: none"> 高梁川の洪水により玉島一帯に大被害がおこる。
19	天保7~8年 (1836~1837)	<ul style="list-style-type: none"> 大飢饉起ころ餓死者多数でる。 大塩平八郎の乱起る。 	
	天保9年 (1838)		<ul style="list-style-type: none"> 富時に「北庭瀬領・南岡山領」の藩境石を建てる。
	慶応4年 (1868)		<ul style="list-style-type: none"> 玉島騒動(熊田恰玉島で自決)